

一般質問通告書

受領日時 令和 7 年 5 月 26 日 (午前)・午後 9 時 15 分 4 番 氏名 石川 交三

質問項目	質問の要旨
1 ひきこもり対策で「五城目方式」を構築しよう。	(1) 町内の実態調査はしているか。「ひきこもり者」「不就労者」「障害者」等の年代別・地域別など詳細な把握が必要ではないか。 (2) 「ひきこもり」をゼロにした藤里町の実践例に学ぶべきだが、わが町ではどう対応するのか。どこでだれが取り組むのか。 (3) 藤里町では社会福祉協議会の職員の決意から事業がスタートした。関わる皆の決意が求められる。町長はその先頭に立つべきと思うがどうか。 (4) 五小・五中に不登校の五月病の発生はないか。実態はどうか。
2 「平和の礎」に、わが町出身者で未刻銘の方がいるのではないか。	(1) 秋田さきがけ新報が連載した「戦後八十年・戦争が見えない」に、太平洋戦争末期の沖縄戦で犠牲となった人々の名前を刻む「平和の礎」がある。本県出身の七十八人が未刻銘となっている可能性が高いとの報道である。民間の戦没者芳名録によれば、わが町では十一名が沖縄戦で戦死している。全員が刻銘されてはいないようだが確認したい。 (2) 未刻銘の方がいるとすれば、刻銘の為の努力を自治体として求められると思うがどうか。 (3) 刻銘を担当するのは県である。県によれば「遺族への確認を県が積極的に行うことはしていない」としているが、町として得られる情報を遺族と県に提供し、刻銘を進めるべきではないか。町長の考えを問う。